

黒部市民病院公立病院改革プランの各計画における具体的な取組み及び自己評価

経営効率化に係る計画

改革プラン策定時における具体的な取組み及び実施時期等（平成 20 年度時点）	23 年度 実績及び自己評価
<p>民間経営手法の導入</p>	<p>新外来棟診療棟等増改築事業の実施設計が完成した。</p>
<p>当面は民営化への方針はないが、部分的に民間委託できる業務については積極的に検討していく事とし、公設民営化や公営企業法の全部適用等も併せて検討していく。また、老朽化している介護老人保健施設や外来診療棟の改築時には P F I の採用も視野に入れ、計画期間内に方針を決定していきたい。</p>	
<p>事業規模、形態の見直し</p>	<p>23 年度についても規模の縮小等に関する問題は発生しなかった。</p>
<p>期間中、事業規模の見直しについては考えていないが、医師や看護師不足の問題から病棟閉鎖等規模の縮小を余儀なくされている近隣の病院の現状を踏まえ、地域の中核病院としての役割を担う当院は、診療科数と病床数の現状を維持することを最低限の課題とし更なる設備の充実と療養環境の改善を目標とする。</p>	<p>また、年度内に人工透析装置システム、循環器用超音波診断装置、X 線テレビ装置等をそれぞれ更新し高度医療機器の充実を図った。 また、10 号官舎の改修を行い、医師の居住環境の改善を図った。</p>
<p>経費削減・抑制対策</p>	<p>年度内の給与費比率は 51.0% となり、22 年度実績（51.6%）と比較し減少した。今後も適正な給与水準を維持していきたいと考えている。</p>
<p>①人件費に関する事項 医業収益に対する人件費率は、平成 20 年度予算で 51.5% だが、医師や看護師の適正配置や委託可能な業務についての検討により、比率の伸びを極力抑える。 ②材料費の抑制 材料費抑制の為、診療材料や薬品の共同購入や値引交渉強化による購入額の抑制と在庫の預託化推進による不良在庫の予防と効率的な購入による購入額の縮減に努める。</p>	<p>平成 23 年度末診療材料棚卸金額 30,893 千円（22 年度末 34,282 千円） 平成 23 年度薬品値引金額（上期及び下期）15,116 千円（22 年度 24,860 千円） 平成 23 年度末後発品採用率 11.4%（22 年度末 10.7%）</p>
<p>収入増加・確保対策</p>	<p>全身麻酔手術件数の増加 23 年度 1,556 件（22 年度 1,415 件）高額手術材料の使用増、診療報酬の加算、指導料の積極的な算定等により入院単価が増加した 23 年度 40,237 円（22 年度 38,049 円）</p>
<p>①入院 収益の増と病床利用率の安定化を図るための対策 DPC（診断群分類包括評価）の導入（急性期病院は、DPC への取り組みが必然となっており、安定した診療報酬と増収に繋がっていくと考える。当院は平成 21 年 7 月の DPC 導入を目指し現在取り組み中である。）・手術室の効率運用による手術件数増・クリニカルパス拡充による在院日数の短縮・高度医療機器の共同利用・開放型病床の利用推進 ②外来収益の増と患者数の安定化を図るための対策 医療情報ネットワークの推進による病診連携と病病連携を強化・紹介率及び逆紹介率の向上 ③その他 分娩費の自費診療費、保険外併用療養費等の社会情勢やサービスに見合った料金適正化</p>	<p>平均在院日数は、前年度と比較し若干改善した 23 年度 15.7 日（22 年度 15.9 日）が当初の目標（15.0 日）には達しなかった。 また、逆紹介件数は 5,839 件で目標（5,800 件）を上回ると共に 22 年度実績（5,725 件）も上回った。</p>
<p>その他</p>	<p>年 6 回の事業（演奏、日舞、民謡等）を行い患者様に安らぎの場を提供した。</p>
<p>①サービス向上に関する事項 院内に患者サービスを検討する委員会を設置し、定期的にアンケートを実施するなど利用者のニーズを把握するよう努めていく。また、時間外の患者さんが安心して受診できるよう、救急室に地域救命センターや小児急患センターを併設している。入院における看護体制では、全一般病棟で夜勤 4 人・4 人体制の実現により、安心で手厚い看護体制の実現を目指す。</p>	<p>また、外来診療及び入院患者満足度調査を行い結果を現場にフィードバックした。 今後も引き続き看護師の確保に努め（23 年度看護師採用 17 人）全一般病棟での 4 人 4 人体制看護を引き続き目指す。</p>

②その他 院内でのTQM・QC活動に力をいれ、職員からの業務改善案を積極的に採用し、病院利用者全員のサービス向上に努めたい。	以前から看護部では職場環境改善、業務改善に取り組んでいる。
病床利用率の状況を踏まえた病床数等の抜本見直し、施設の増改築計画の状況等 常に90%以上の高い病床利用率を維持しており、病床数の削減は考えていない。しかし、1病棟当たりの病床数が多く看護師の負担が大きいことから平成25年頃に予定している外来棟等の建築時に、病床配分の再編を予定している。	23年度の一般病床利用率は93.4%（22年度95.5%）23年度目標（95.1%）を下回った。 24年度内の着工に向け、23年度内に外来棟等増改築実施設計が完成した。

#### 再編ネットワーク化に係る計画

再編・ネットワーク化計画の概要及び当該病院における対応計画の概要 今後、ますます進むと言われている高齢化に向け、急性期を担う病院とそれ以外の病院と今まで以上に機能分担する必要があると考える。ただし、このことは当院のみで進められる話ではなく、他院、他自治体及び県とも十分な話し合いが必要であるため、実現までにはまだ不透明な部分が多い。	再編・ネットワーク化については病院間同士の話し合いで結論が出るのではなく、長期的な観点でかつ慎重に考えていく必要がある。
---	--

#### 経営形態見直しに係る計画

経営形態見直し計画の概要 当面は、経営形態を変える予定はないが、今後の社会情勢等を踏まえ種々の経営形態について研究・検討していく。	今後も全国の自治体病院の動向を注視しつつ、最適な経営形態について検討していく。
--	---

#### 平成23年度自己評価・達成状況の総括

平成23年度については、当初予定をしていた建設改良事業等については、ほぼ予定どおり完了することができました。また、収支については入院、外来患者数共に減ったもののDPC調整係数、手術件数の増等により収益が増加し最終決算は223,675千円の黒字となりました。今後についても収益に見合う予算執行を行い、健全経営の維持に努めていきたいと考えています。

#### 平成23年度黒部市民病院公立病院改革プラン評価

当院は、県内主要自治体病院の中で健全な経営基盤を有する病院として、高い評価を受け今日に至っており、平成21年度決算では、経常損失、純損失を計上したもの、平成22年度決算では、経常利益、純利益を計上し、平成23年度決算では大幅な黒字決算となった。これは、DPC調整係数の増や手術件数の増加等によるもので、これまで取組まれてきた医師、看護師の確保、院外処方箋の定着化、病棟連携の充実、高度医療機器の充実をはじめとする医療供給体制の充実強化、経営努力には一定の評価をするものである。

今後は、病院の増改築事業という大規模事業が控えており、順調に進行することを願うとともに「黒部市民病院改革プラン」に基づき安定経営を維持し、医療事故の防止対策、患者サービスの向上充実等の「利益の質」についても着眼し県東部における基幹病院としての役割を果たすよう望むものである。

## 黒部市民病院公立病院改革プラン数値評価

### 財務に係る数値目標

数値目標	19年度実績	20年度目標	20年度実績	21年度目標	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	23年度上期実績	23年度実績	備 考
経常収支比率【100%以上が好ましい】	100.8	100.0	100.5	100.8	99.4	100.9	100.9	101.1	108.8	102.3	% (103.6%)
医業収支比率【100%以上が好ましい】	101.0	99.7	100.1	99.6	99.1	100.6	100.7	100.8	110.5	102.2	% (98.0%)
職員給与費比率（対経常収益）【低い方が良い】	47.0	47.9	46.8	47.1	48.4	47.7	48.0	48.1	48.6	47.6	% (46.8%)
職員給与費比率（対医業収益）【低い方が良い】	50.7	51.5	50.5	50.6	52.1	50.7	51.6	50.9	50.3	51.0	% (51.7%)
委託費比率（対医業収益）	6.7	7.4	7.1	8.2	7.4	8.2	8.2	8.2	8.5	8.0	% (7.9%)
病床利用率【高い方が良い】	93.4	93.4	92.8	93.4	89.0	93.4	93.7	93.4	91.5	91.8	%
病床利用率（一般病床のみ）【高い方が良い】	95.0	95.1	94.6	95.1	90.8	95.1	95.5	95.1	93.2	93.4	% (80.7%)

( )は22年度の当院と同規模  
全国黒字病院の平均数値

#### ※ 上記目標数値設定の考え方

単年度収支での黒字化を目標とし、医業収支比率が100.0%を下回らないようにする。（適正な職員給与費率及び高率での病床利用）

### 公立病院としての医療機能に係る数値目標

数値目標【】内は指標	19年度実績	20年度目標	20年度実績	21年度目標	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	23年度上期実績	23年度実績	備 考
逆紹介件数	5,772	5,500	5,530	5,600	5,836	5,700	5,725	5,800	2,962	5,839	件
【病診連携】											
クリニカルパス利用率	—	35	37	36	39	37	38	38	37	37	%
【医療の標準化】											
患者1人あたりの診療収入（入院）	36,774	38,024	37,525	39,304	37,310	39,600	38,049	39,900	39,658	40,237	円
【急性期】											
全救急患者に占める入院患者の割合	14.9	15.2	15.3	15.5	15.4	15.8	16.5	16.1	15.5	15.5	%
【救急】											
平均在院日数（一般病床のみ）	15.9	16.0	15.9	15.6	15.3	15.3	15.9	15.0	15.5	15.7	日
【急性期】											

### 自己評価